



NIPPON BEARING

5月24日付 日本経済新聞広告『かくれ雑学』詳細 【マラソンを 54年かけて完走した 最長記録がある】

現在、世界トップレベルの選手が平均2時間台の前半で完走するフルマラソンに於いて、54年という年月はあまりにも長い記録です！ 一体何があったのでしょうか？

この記録の持ち主は、金栗四三さん。

日本で最初のオリンピック選手の一人であり、『日本マラソンの父』と呼ばれています。1912年、ストックホルムオリンピックに出場した金栗さんは、レース中に倒れ、近くの方に助けられます。目覚めたのはレース翌日だったため、本人は棄権になったと断念しました。ところが、通常なら棄権扱いになるところ、『レース中に失踪して行方不明』と記録されたのです。

1967年、記念式典開催のために当時の記録を調べていた委員会が、棄権では無いことに気付き、金栗選手を記念式典に招待して、54年振りのゴールが実現しました。

当時の状況を振り返ると、過酷な環境により体調不良を余儀無くされたことが窺えます。

- レース当日は異常な猛暑により、半数近くのランナーが棄権する程だった
- 当時、日本からスウェーデンまでは船で20日もかかり、移動により体に負担がかかった
- 日本と異なるスウェーデンの生活への順応が困難だった（白夜のため睡眠障害・食事面）

その後、金栗さんは当時の敗因から、様々なトレーニング方法を発案します。

◎心肺機能を高めるための高地トレーニング

◎孤独な長距離練習をチームで行うための駅伝企画（箱根駅伝の原点とも言われています。）

今では当たり前となった、選手の健康管理とトレーニング。

その基盤を作り上げたのは、自らの経験から健康管理の重要性を痛感した、金栗四三さんでした。

日本ベアリングでは、数多くの製品を開発・製造していますが、開発段階から製品発売までに何年もの歳月を要し、その間、品質を保証するために、数回～数十回に及ぶ数多くの試験が行われております。ここには、高品質を貫く企業精神が深く反映されています。

スポーツに於けるトレーニングや健康管理は、ベアリングの品質・品質管理と同じものです。54年の最長記録は、記憶に残る感慨を生み出しましたが、そこから生まれた体調管理やトレーニングの大切さは、品質管理の大切さと共通しているのではないのでしょうか？

ちなみに、金栗さんのフルマラソン最高記録は、2時間19分20秒。

生涯に走破した距離は25万キロ、地球6周と4分の1でした。

【企画・協力：(株)学研エデュケーショナル】